

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 助教

氏名 西 晃太郎

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

臨床教員として、臨床的知識を共有することのみならず、基礎的な知識を臨床と繋げることで、新たな気付きを与えるようにしている。また、臨床現場で必須である人とのコミュニケーション能力や要点を掴む技術を養う環境づくりに取り組んでいる。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
獣医総合臨床実習	獣医学科	必修	5	約140
総合獣医学	獣医学科	必修	6	約140
小動物臨床実習	獣医学科	必修	5	約140
小動物病院実習	獣医学科	選択	6	約5

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

単なる知識の伝達にとどまらず、学生が主体的に考え、学び続ける姿勢を育むことが重要だと考えている。小動物内科学としての教育においては、臨床現場で即戦力となる実践的なスキルと、科学的思考に基づく論理的な判断力の両方を身につけた状態が望ましい。そのため、「主体的な学びの促進」「多角的な視点の涵養」「実践と理論の統合」を重視した教育アプローチを採用している。

獣医師は伴侶動物のみならず、畜産、水産、農業、研究など多分野において社会的需要があり、学びの場はそれらを認知してもらおう時期と考えている。これにより、自らの立場や使命を確立し、より専門性を高めるステップを歩みやすくしていく。

基礎的な知識と研究的観点からの視点は、臨床を遂行する上で多角的に判断する重要な材料となる。そのため、常に解剖学、生理学、生化学などの知識を付随した問いかけやディスカッションを目指す。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

教育理念は、「主体的な学びを促し、臨床現場での実践力と科学的思考を備えた獣医師を育成すること」である。この理念を実現するために、3つの教育方針を軸に指導を行っている。

1. 主体的な学びの促進

- ・症例発表会とグループディスカッションの導入

学生が実際の症例を調べ、診断や治療方針について発表し、互いにフィードバックを行う機会を設けている。これにより、知識を整理し、論理的思考を鍛えるだけでなく、チーム医療の基礎となるコミュニケーション能力も育成する。

- ・質問を歓迎する環境の構築

学生が自由に質問できる雰囲気を作るために、授業内で意見を述べる機会を増やし、発言を肯定的に受け止めるよう努めている。また、疑問点に対してすぐに解答を与えるのではなく、学生自身に考えさせるように誘導することで、問題解決能力を向上させるようにしている。

2. 多角的な視点の涵養

- ・論文の読み合わせと批判的思考の指導

研究論文を題材にして、内容の要点を整理し、エビデンスレベルを評価するトレーニングを行っている。論文の背景だけでなく、どのような国、雑誌、人物によって描かれているかなども着目させている。これにより、科学的根拠に基づくことの重要性、論文の意義などを理解し、論理的に考える力を育成する。

- ・異なる分野との橋渡し

小動物内科学だけでなく、その土台となる解剖学、組織学、生理学、生化学など他の専門分野との関連性を示し、総合的な診断力を身につける機会を提供している。

3. 実践と理論の統合

- ・診察のシミュレーションと臨床実習の強化

臨床実習では、学生自身が診察を担当しているように感じさせる環境を作っている。これにより、実際の現場での判断力を養い、卒業後にスムーズに臨床業務に適応できることを目指している。

- ・時間管理能力の向上

獣医師には、限られた時間内で適切に診療を行うスキルが求められる。そのため、臨床実習では、診察開始時間や休憩時間、終了時間を明確に設定し、学生自身がスケジュール管理を意識できるよう指導している。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

常に「こうしようか」ではなく、「どうしようか」という投げかけを行い、自らの責任感と行動力を養うようにしている。

(2) ICTの教育活用

無

着任して浅いため、今後オンデマンド配信を含めて検討していく。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

特に実習では5感を最大限に活かすことが重要である。一方で、実際の検体や材料の使用に制限がある現状を加味し、できる限り生の臓器・組織を扱う環境づくりを目指している。例えば、食肉の臓器でハンドリングや実習を実施するなど、身体で学ぶことも重視している。

(2) 学生の理解度の把握

C

着任して浅いため、まだシステム構築に至っていない。小テストなどを実施予定である。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

A

何故その事象が起こっているかについて、明確な答えは出さず調べてきてもらうことにしている。調べてきた内容を複数人でディスカッションする場を設けるようにしている。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

特に臨床現場において、声を掛け合うことの重要性や発言を恥と思わないように、頻繁に声がけを行い、気軽に相談できるよう取り組んでいる。

(5) 双方向授業への工夫

A

上記と同様に、積極的な声がけを重視してより身近な存在となるよう取り組んでいる。

(6) 国家試験対策の取組 (獣医学科・臨床検査技術学科)

A

専門的な知識に偏りがちな大学教育では、国家試験の幅広い分野を浅く広く学ぶために要点を押さえていく能力が重要となる。そのため、教える範囲については、頻出な範囲からウェイトを置きつつも、広域に押さえるべき点は伝えるようにしている。

5. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

実臨床からの学びを基礎に落とし込むようにしている。具体的には、症例に対して、その原因となる臓器、組織、細胞レベルでの変化、解剖学的特徴などを調べてもらうことで、全体的な科目バランスの取れた成績上昇が見込める。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

着任して浅いため、フィードバックはまだない。

6. 指導力向上のための取組 (FD研修参加等)

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

すでに教員としての暦が長い先生方から具体的な指導方法などを聞くようにしている。

7. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

獣医学の発展を目的として、すべての分野の底上げとなるような人材育成をしていく。

8. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(自ら作成するもの)

1. 授業に関するもの

シラバス、小テスト、宿題、レポート課題、試験問題、教材（配布資料、パワーポイント資料等）

2. 教育改善に関するもの

教育に直接貢献する研究、FDプログラム等への参加記録、教育の工夫を示すもの（複数年のシラバス等）、教育活動関連の補助金の獲得

(他者から提供されるもの)

1. 学生から

授業評価データ、授業に関するコメント（授業評価の自由記述やメールのやりとり等）、卒業生からの授業や教育についてのコメント

2. 同僚から

授業参観の講評、作成教材についての意見、同僚のサポート実績

3. 大学／学会等から

教育に関する表彰、教育手法等に関する講演の記録及び招聘の要請書類、カリキュラムやコースの設計などについての評価

(教育／学習の成果)

授業科目受講前と受講後の試験成績の変化、学生の小論文・報告書、学生のレポートの「優秀」「平均的」「平均以下」の例、特に優秀な学生についての記録、指導学生の学会発表などの成果、学生の進路選択への影響についての事実、学生のレポートの改善の軌跡